

Title	太宰春臺の和歌観
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.110(570)- 110(570)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0110">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0110</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

子古之述正木のかつら再遍熟覽仕候。和歌は思ひ出るまゝによみ出す事也、題詠といふ事古にあらずと申事、名所とさせる事、所定りたる事になしと申事、制之詞といふ事、有ましき事と申事、いづれも千古之卓見にて、實に和歌の正道にて可有御座候。近時、京稻荷神主羽倉齋宮と申者、地下にて和歌復古之説を申出し候。歌道は定家卿より亡ひ候と申候而、今時の公卿を嘲申候眞の豪傑にて御座候。純なとも齋宮同意に存候。齋宮を知言と存候。子古之見識たのもしく御座候。當時の名聞を離れ候て歌道を振はれ候に仕度候。此書議論は遣る處なく見え候へども、文詞の間今しこと足らぬ様に存候所も御座候故、松崎左吉は歌學の功者に御座候故見せ申候而、心置なく批評仕候様と申候へば一覽甚悦にて一紙書は遣し候。又土屋宮内殿も和歌嗜好御座候間見せ候へば是も甚驚嘆の事に御座候書中青紙を貼候は愚見にて御座候。紅紙を貼候は堯臣の不審に御座候。此分今少斷管に而文詞を修飾有之候は、可然候。假字つかひなと少々相違見え申候。連もの事に今少心を付られ候様に仕度候。右一本久々留置申候間、今日壁上仕候間御落手可被下候。愚意申上候。子古に宜しく被仰通可被下奉願候。

巳 上 五月廿七日 純

拜 具 執事 明卿 老職

註 純とは大宰春台、明卿とは庄内藩家老水野元朗號華陰松崎左吉堯臣號觀瀾。